

毎日新聞朝刊 岡山県版 2016年2月2日(火)掲載



地域安全マップ作りに熱中する児童
＝備前市西片上の市立片上小で

自ら歩いてチェック

備前・片上小 地域安全マップ教室



犯罪や事故に巻き込まれないよう、子どもたちが自ら街を歩き、手作りの地図を作る「地域安全マップ教室」（「だいじょうふ」キャンペーン実行委主催、明治安田生命協賛）が1日、備前市の市立片上小学校であり、3

年生24人が参加した。同キャンペーンの一環で開催。講師の小宮信夫・立正大教授（犯罪心理学）が犯罪が起きやすい危険な場所について解説した後、児童は5〜7人ずつの班に分かれ、学校周辺を歩いて危険箇所を探した。学校に戻ると、模造紙に地図を描き、危

険な場所の写真やコメントなどを加えてマップを完成させた。小宮教授は「歩くうちに、子どもたちが危険な場所を徐々に分かるようになって驚いた。地域住民とあいさつが交わされ、防犯に強い地域」と語った。3年の戸田侑那ちゃん(9)は「近所は優しい人が多くて安心だけど、狭い道など危険な所には気がつきたい」と話していた。

【瀬谷健介】